



岩手県大槌町役場庁舎にて
現地視察では、合川中生が宿泊する陸中海岸青少年の家の菊池所長が震災当時の様子を説明してくださいました。



代表の生徒が献花し合掌。
テレビや新聞では見ていた被災地の現状を実際に初めて見た生徒は、被害の大きさと、まだまだ復興していない現状を目の当たりにしました。



山田町龍泉寺にて
周辺自治会の人たちから震災当時のお話を聞きました。
津波の恐ろしさ、そして、避難所で地域の皆さんが力を合わせていた様子などを教えていただきました。



座禅体験
住職さんから、座り方や手の組み方、呼吸の仕方などを教えてもらった後、いざ挑戦！



皆さん、背筋がぴんとし、大変美しい姿勢でした。
この後、警策(きょうさく)で1人ずつ肩を打っていただきました。
“文殊(もんじゅ)様からの激励の意” だそうです。



住職さんと一緒に記念撮影。

10月13日(日) 交流2日目



昨日に引き続き仮設住宅を訪問し、まと火実演とだまこ鍋やババヘラアイスのおふるまいの実施を皆さんに宣伝。「ぜひ、来てくださいね。」



前日のビラ配りの際には、仮設住宅の談話室に入れていただき、区長さんから震災当時の状況を教えていただいたり、仮設住宅の中を見せていただいたりして、震災の被害の大きさや復興がまだ進んでいないことを肌で感じる事が出来ました。



まと火会場となる山田北小学校では、午前中保育園の運動会が行われていました。許可をいただき、ここでもチラシを配布。皆さんとても明るい笑顔で迎えてくださいました。また、秋田県出身の方もいて「夕方、見にきますね」と応援していただきました。



青少年の家に帰り、まと火会場で配布する「まと火ハンカチ」にメッセージを書き込みました。「これからもずっと応援しているので、笑顔で頑張ってください」など、一人ひとり思いを込めて。



山田町の皆さんに思いが届くことを願って。



午後は、地元山田町の子どもたちと交流。



男子は、まと火で使う「たいまつ」を作りました。



女子は、まと火会場でふるまうだまこ鍋の「だまこ」を作りました。山田町の子たちにも味見をしてもらいましたが、「塩味が効いていて美味しい！」と好評でした。



最後に記念撮影。

短い時間ではありましたが、被災地で明るく生活している同世代の友だちと交流出来たことは、大変良い機会となったようです。この後、まと火会場にも遊びに来てくれました。



子どもたちが交流している間、まと火会場では、「合川まと火保存会」の方々を中心にまと火の準備が進められるとともに、「合川婦人会」「合川中学校 PTA」の方々を中心にだまこ鍋のふるまいの準備が進められていました。



いよいよ、だまこ鍋500人分のふるまいがスタート。ちょっと冷えてきた会場で、温かいだまこ鍋は大好評でした。「とっても美味しい」「わざわざ、秋田から来てくれてありがとう」と声をかけていただきました。今回は、「JA あきた北央」さんが、無償で鍋の材料を提供してくださいました。



こちらでは、秋田名物「バシムヘラアイス」のふるまいも。ちょっと寒い会場にもかかわらず、皆さん「美味しい」と言って喜んでくださいました。「秋田で食べたことがあるよ」「さっぱりしていて美味しいね」「秋田のどこから来たの？」と声をかけていただき、地元の方と交流をしながら活動することが出来ました。



山田町龍泉寺住職のほか、北秋田市の僧侶5名が来町し、鎮魂供養式が行われました。見守る住民の皆さんの中には合掌する姿もありました。



まと火を実演する生徒も祭壇の前で合掌。



厳かな雰囲気の中、まと火開始。たいまつに点火します。



合川中学校の生徒と、昼の交流で一緒にまと火の準備をした山田町の生徒2名も参加して、100メートルの長さに設置したダンポに火を付けていきます。



道路を挟んで、向かい側でまと火を見る地域の方々。夜になり、さらに気温が下がる中、たくさんの人たちが見に来てくれました。中には合掌して見つめる方の姿もありました。



仕掛けまと火は「つなぐ」の文字が。



津波の被害に遭い、新しく建築中の船越小学校の建築現場を見学させていただきました。当時、海拔13メートルの高さにあった校庭と校舎1階部分が全て津波で流され、避難して来た方が亡くなったとのことでした。「こんな高さまで津波が来たのか」と改めて津波の恐ろしさを実感しました。



湾の中にあるため、ほとんど波がない海が広がる景色。「山田町の自然はとてもきれいでした。この海があればほどの被害を出すなんて考えられませんでした。」「とてもきれいな海が震災の時恐ろしい海になってしまったと思うと怖い」等の感想がありました。



「道の駅やまだ」でお買い物。
山田町の名物などを見たり、家へのお土産を選んだりしました。



「平泉 宣先生を囲んで…」
大館市出身で山田町にある山田病院の副院長である平泉先生は、被災5日目から避難所で無料診療を始められたそうです。先生からは「震災を生きのびる」をテーマにお話をいただきました。



平泉先生のお話を聞いた後、生徒から質問タイム。
被災当時の避難所の生活状況等について教えていただきました。



合川中学校の文化祭で行われたバザーで集めた寄付金を贈呈しました。山田町の震災遺児を支援する「鈴木善幸記念教育基金募金」へ寄附されることになりました。先生からは「この基金は震災直後の翌月に日本で一番最初に現地で作られた奨学金、皆さんの気持ちを役立たせていただきます」とお礼の言葉が。

【生徒の感想より】

- ・今回の体験で、被災地の現状を見たり、被災された方のお話を聞き、今まで以上に津波や地震の恐ろしさを思い知らされた。しかし、ピラを配っている時など皆さんの笑顔が見られ、僕たちも元気になれた。そんな笑顔をもと火やだまこ鍋で増やす事が出来たと思う。思い出に残る体験だった。またぜひ行って笑顔を増やせたらいいと思う。
- ・山田町の現状が分かったので、来年行くときはもっと良いものにしたい。山田町と三陸全体を元気に出来るようにこれからも出来ることを精一杯頑張りたい。
- ・山田町の人たちに合川の伝統文化を伝えることが出来て嬉しかった。今後は、山田町に限らず色々な被災地でまとも火を見ていただきたい。
- ・初めは、被災地の人たちはとても悲しそうなイメージがあった。でも実際に仮設住宅に行ってみると、笑顔がたくさん見られて逆に自分が元気づけられた。
- ・交流で驚いたことは、被害の爪痕が生々しく残っていること。最初はいきなり仮設住宅に行くと失礼ではないかと不安だったが、現地の方々がとても温かく迎えてくれた。僕の心もとても温かくなった。しかし、まだ被害は残っていて、仮設住宅にたくさんの方が住んでいた。早く家に住めるように心から願っている。
- ・地元の方々のサポートで、このような貴重な体験をすることが出来て良かった。テレビなどで見ていると大変な状況だとは分かるが、実際に行ってみると言葉では言い表せないものを感じた。今後、僕たちは犠牲をなくすため平泉先生からの言葉を活かし、もう二度と悲しい思いをする人を増やさないように後に伝えて行きたい。
- ・山田町は景色がとても良くきれいな場所だということがわかった。特に海がきれいだったが、そういう海でも津波となり多くの被害が出たと考えると、自然災害の恐ろしさを感じた。
- ・仮設住宅を訪問した時に涙ながらにお話をしてくださった方もいて、とても心に残っている。交流会では、山田町の友だちもたくさん作ることが出来て良かったし、とても楽しかった。また機会があればぜひ参加したい。
- ・私が一番心に残ったことは、被災地の風景だ。震災から3年近くたとうとしているが、がれきが積み重なっていて、建物が全くなかった。あのきれいな海から波が押し寄せてきたとは思えなかった。でも、仮設住宅で笑顔で迎えてくれて心が温まった。今回の体験で人の心の強さと優しさを改めて知ることが出来た。
- ・この交流で自分たちが普段の生活をどれだけ幸せに生きているか分かったので、日々の生活を大切にしていきたい。
- ・一番印象に残ったことは、だまこ鍋交流を通してたくさんの友だちが出来たことと、被災地の方々からの「美味しい」の一言だ。山田町の皆さんに笑顔を届けられてとても嬉しかったし、やりがいを感じた。